3

書く

文章を推敲する

〔知識・技能〕

名前

解答

『推敲』とは

文章をよりよくするために、繰り返し、手直しをすることを『推敲』といいます。

※文章を書いたら必ず読み返して、読み手に分かりやすい文章になるように、推敲しましょう。

身に付けると…

読み手に分かりやすい文章を書くことができます。

やってみよう

〔解答と解説〕

一

（1）だろう

・「たぶん」は実現の可能性の強いことを推測する副詞だから、推量する言葉で受けます。

（2）ない

・「決して」は、「決して…ない」というように否定する言葉で受けます。

（3）かもしれない

・「もしかしたら」は起こるかもしれないこと、考えられることを想定するときに使う副詞です。確かではないがあり得ることを示す「かもしれない」に呼応します。

知っておこう

受ける文節に特定の言い方を要求する副詞を、**呼応の副詞（陳述の副詞）**といいます。

二

（1）売られていた

・お菓子が主語なので、「売っていた」という述語は使えません。「売られていた」という受け身の形になるのが正しいでしょう。

・意味を変えずに「売っていた」という述語をそのまま使ってこの文を書き直す場合は、助詞を変えて「お菓子を」とします。

二

（2）合うことです

・この文の内容を変えずに主述の関係を整えるためには、「（この絵の）特徴は」に対応させて、「合う」に「こと」などの体言を付ける必要があります。

〔平成二十一年度 全国学力学習状況調査 A問題より〕

（3）なくすことです

・（2）の問題と同じように、「（私の）願いは」に対応させて、「なくす」に「こと」などの体言を付けます。

三

① 兄が久しぶりに昼ごろ福岡から帰ってくるというので、楽しみに待っていた。

② しかし、事故のために特急が遅れ、夕方になっても到着しなかった。

③ それで、私は約束していた友人と会うために出かけた。

・だらだらとした長い文は主語・述語が分かりにくくなります。主語・述語の関係がはっきりする適度な長さの文にするようにしましょう。